所

鳥羽二見交通圖

和樂路屋發行地圖目録

本店發行の地圖は調査製圖は勿論紙質印刷製本等及ぶべく注意仕價格も相働中置候間御信用被下度候尚若圖中遺洩誤謬等御氣附の節は公私の爲御示教賜り度奉願上候

日下書店主 敬白

品名	定價
大日本縣別地圖併市町村名大鑑	八圓
帝國府縣別地圖(五十二枚賍入)	五圓
全國交通里程圖附改正市町村名大鑑	四圓五十錢
全國交通里程精圖	三圓
ポケット日本地圖	六十錢
最新里程入大日本全圖	五十錢
改正鐵道地圖	特製二十錢
ハンデイ鐵道地圖	十錢
早わかり日本名所圖	二十錢
ポケット世界地圖	六十錢
改造世界地圖	七十錢
最新支那全圖	壹圓
京阪神附近實測精圖	五十錢
最新九州大地圖	五十錢
一万五千分一大阪市大地圖	八十錢
二万分一大阪市圖	四十錢
同 無着色	四十錢
大阪市街地圖	二十錢
大阪電車地圖	十錢
最新小形電車地圖	五錢
大阪電車附郊外電車地圖	五錢
三万分一大阪市地圖	二十五錢
同 大阪地域圖	二十五錢
第二次大大阪都市計畫全圖	八十錢
第一次大大阪都市計畫總攬	壹圓
大阪都市計畫一攬圖	八十錢
大阪の都市計畫	二圓八十錢

品名	定價
大阪パノラマ地圖	五十錢
番地入東京市街地圖	二十錢
東京區分精圖	五十錢
東京市電車圖	十五錢
大京都市全圖	二十錢
同 無着色	二十五錢
京都市小形	十錢
京都名所圖	十五錢
神戸市街全圖	二十錢
同 無着色	二十錢
北海道及樺太地圖	二十錢
里程入朝鮮全圖	二十錢
最新四國全圖	二十錢
最新畿內遊覽地圖	二十錢
早わかり近畿名所地圖	十五錢
早わかり近畿日がへり旅行圖	十五錢
姫路市街全圖	二十錢
宇治山田市街全圖	二十錢
富士登山地圖	十五錢
最新六甲登山地圖	二十錢
立山方面及其山頂	五十錢
靈山身延諸坊附近	五十錢
日本アルプス連山	四十錢
白馬嶽方面及其山頂	四十錢

品名	定價
西國三十三所巡拜圖	十錢
西國八十八所巡禮圖	十錢
皇陵參拜地圖	十錢
同 道ノ栞	十錢
箱根名所圖	十五錢
瀨戸內海遊覽地圖	十五錢
溫泉案內伊豆全圖	十五錢
豆相溫泉地圖	十五錢
里程入淡路全圖	十錢
高松市街全圖	十五錢
和歌山市街地圖	十五錢
新舞鶴市街地圖	十五錢
盛岡市街全圖	十五錢
尾道市街全圖	十五錢
名古屋市街全圖	十錢
奈良市街全圖	十五錢
奈良名所案內地圖	十五錢
岡山市街全圖	十錢
廣島市街全圖	十錢
德島市街全圖	十錢
二万分大阪近郊（牧方盤舟・生駒四條畷・寶塚有馬・神戸市附近・信貴道明寺・茨木池田・六甲附近・大阪首部・平野・堺・西ノ宮附近）	各十錢

品名	定價
英文大阪地圖	四十錢
大阪區分地圖（東區・北區・港區・東淀川區・西成區・西區・天王寺區・此花區・東成區・南區・浪速區・西淀川區・住吉區）	各十錢
日本名勝旅行圖（奥羽北陸・東海道・近畿・四國・中國・九州）	各十五錢
十万分大阪近郊旅行圖（京都大津部・泉南と和歌浦部・阪神有馬部・奈良生駒部・大和中部と河南部・能勢三田部・住吉泉北部・吉野高野部）	十錢
月刊小形旅行案內	二十五錢
帝國府縣別地圖 (近畿地方)大阪、京都、滋賀、奈良、和歌山、三重、(中國山陽山陰)兵庫、岡山、廣島、山口、鳥取、島根、(四國地方)香川、德島、愛媛、高知、(九州地方)福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、大分、宮崎、沖繩 (關東地方)東京、神奈川、埼玉、茨城、千葉、群馬、栃木、(中部及北陸)岐阜、愛知、靜岡、山梨、長野、福井、石川、富山、新潟、(奥羽地方)福島、宮城、岩手、秋田、山形、青森	十錢

裝飾と實用室內掛軸用
高尚優美印刷鮮明

品名	寸法	定價
模範縮尺百万分ノ一精密日本大地圖	緞子表装 天地五尺七寸 幅三尺七寸	七圓
縮尺一万五千分ノ一大阪市大地圖	緞子表装 天地五尺七寸 幅三尺七寸	三圓五十錢
里程詳密大日本地圖	天地二尺七寸 幅三尺七寸	參圓
三万分一都市計畫線入大阪市街全圖	天地三尺八寸 幅二尺八寸	參圓
十万分ノ一最新京阪神附近實測圖	天地三尺八寸 幅二尺八寸	參圓
世界交通地圖	天地二尺八寸 幅三尺八寸	參圓
第一次大大阪都市計畫總攬	緞子表装 天地三尺八寸 幅二尺八寸	二圓五十錢
第二次大阪都市計畫全圖	緞子表装 天地三尺八寸 幅二尺八寸	二圓五十錢

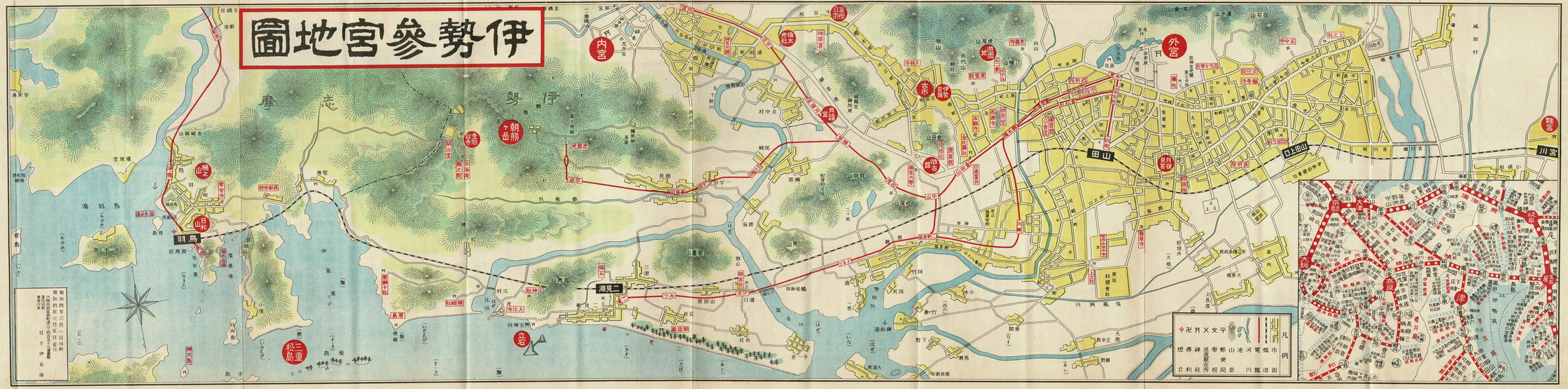
○郵送料ハ約三枚毎ニ金二錢
○郵券代用ハ一割増代金引替御斷リ
○送金ハ振替大阪五二一番ヘ御拂込ヲ乞フ

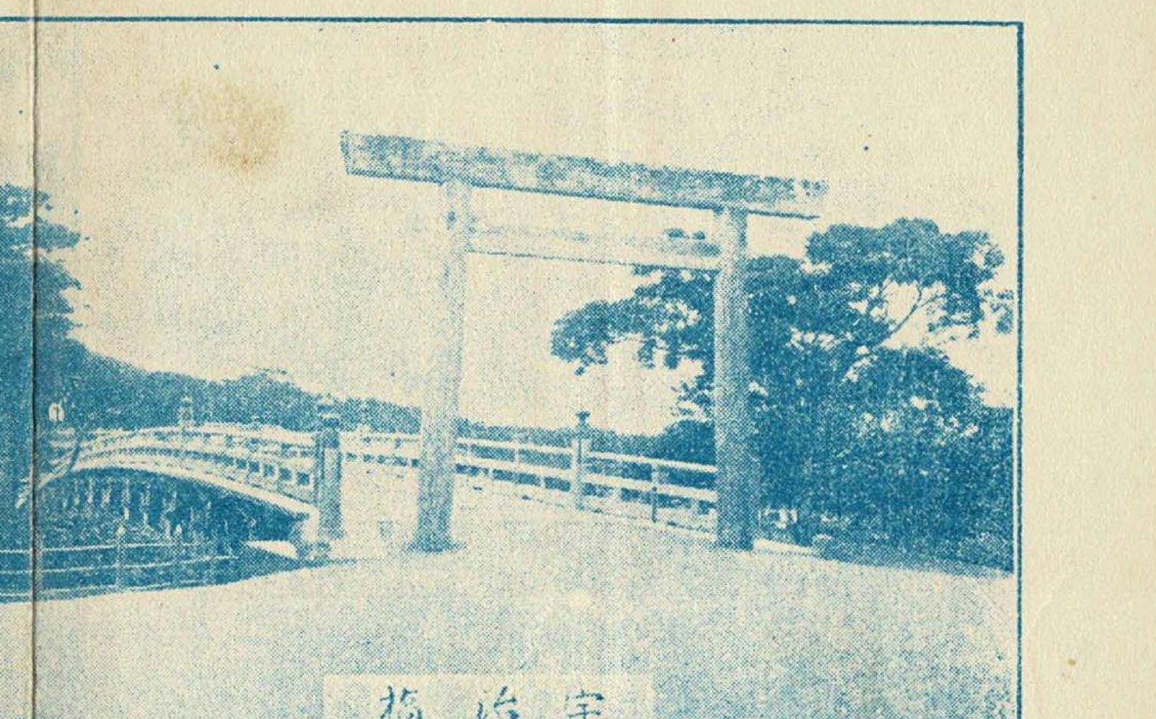
大きさ

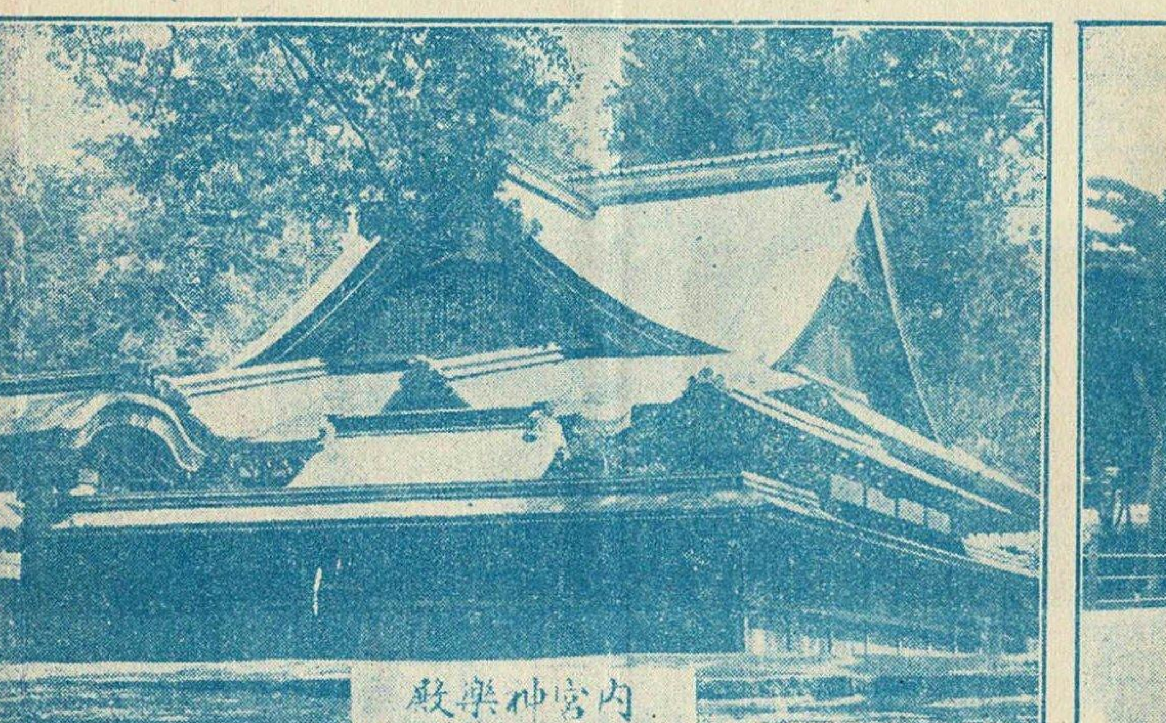
記號	大きさ
▣	五尺二寸 三尺六寸
◎	四六全紙 三尺六寸の二尺六寸
○	二尺六寸の一尺八寸
□	二尺一寸の一尺五寸
◉	一尺八寸の一尺三寸
●	一尺五寸の一尺
△	一尺三寸の九寸
■	クロス布製本綴
▲	折本ポケット仕立其他

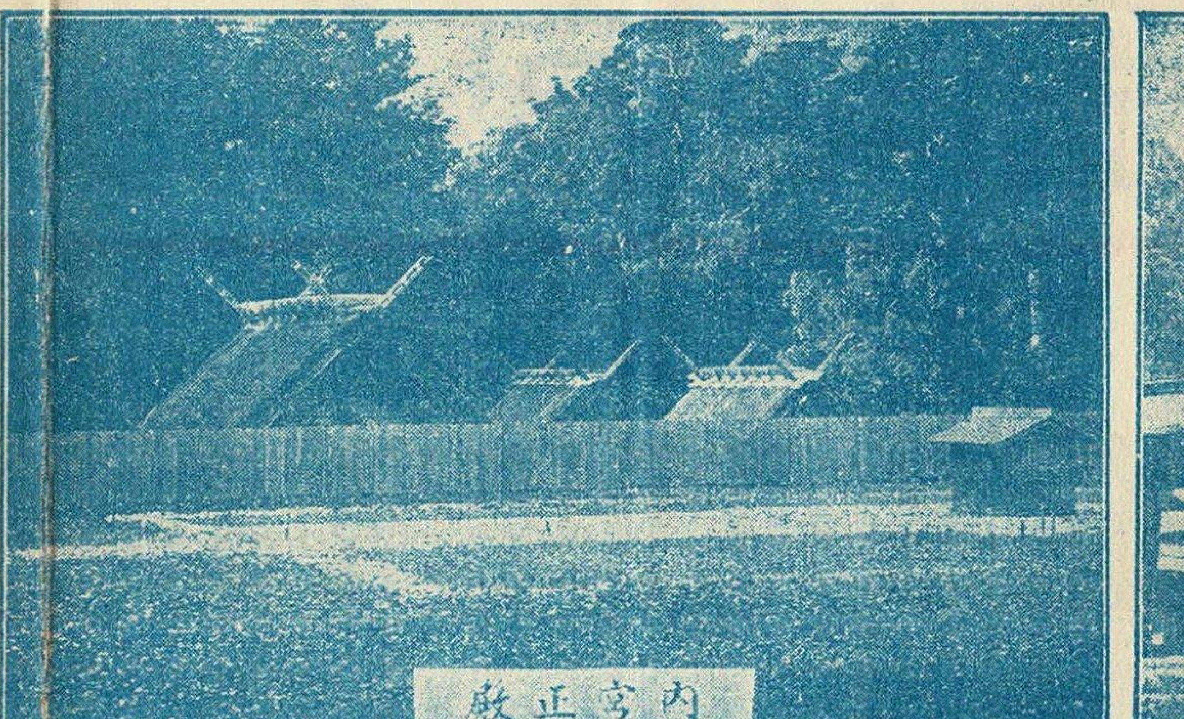
地圖專門業
日下和樂路屋（わらぢや）
大阪市西區新町通三丁目
電話新町四六八番
振替大阪五二一番

伊勢參宮地圖


內宮
外宮
朝熊岳
鳥羽
二見浦
田丸
山田
上山田
宮川
市
日月宮
月夜見宮
倭姫宮
伊勢
摩志
港
凡例
市
電鐵
河
運
川
山
郵
學
送
便
道
館
在
所
局
番
社
神
佛
卍
文
干
支
十
字


宇治橋

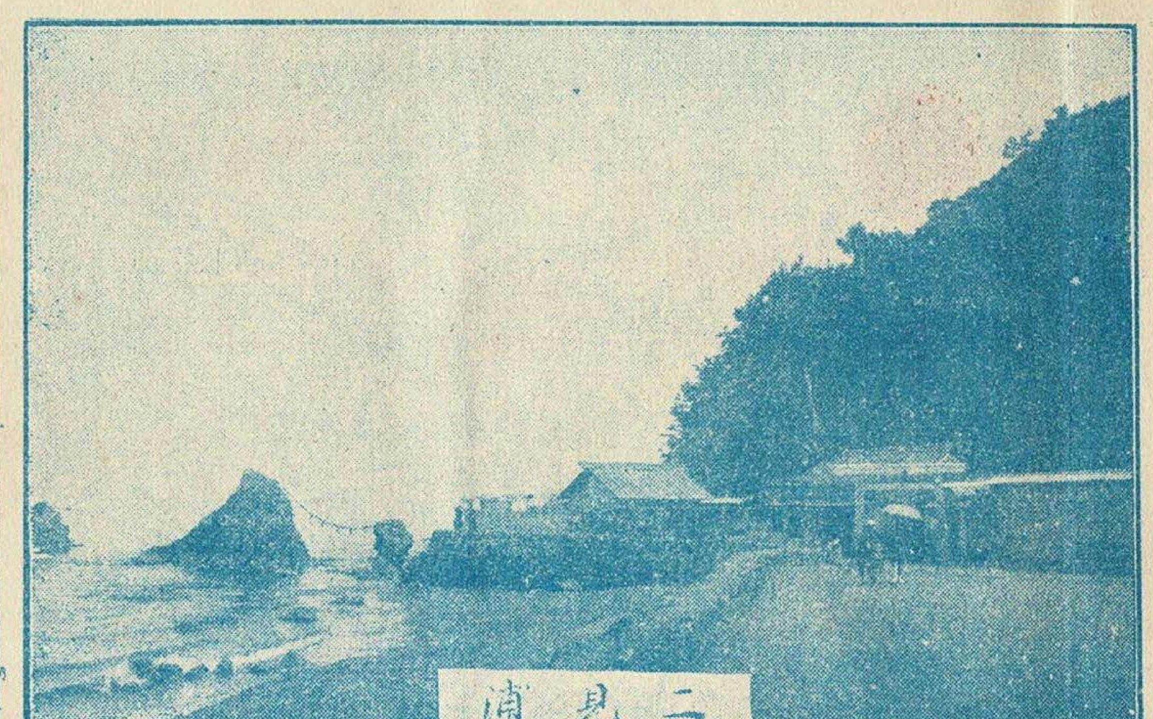

內宮神樂殿


內宮正殿

外宮神苑

外宮正殿

外宮神樂殿


二見浦

徵古館

參宮の栞

參拜順路

揃ひの菅笠音頭唄を昔物語りとして關西線を龜山より參宮線に入り京阪より六時間名古屋より四時間にて山田驛に下車すれば、驛前に電車自働車ありて一路內宮に至るを得るも先づ驛より三町の外宮に詣づるを普通とす、外宮を祭る地を山田といひ、內宮の鎭まり在す所を宇治と稱す、宇治山田と一と口に言へども五十町の距離ありて其間電車あり御成街道を走る自働車あり又乘合馬車もあれど、時間あらば舊道の古市相の山又は由緣深き神都の古蹟を巡りて伊勢情趣を味ふは參宮者の最も望む所なるべし、さて內宮を拜せば二見浦夫婦岩、又は鳥羽の奇を賞するか或は電車を楠部に乘りかへ朝熊山不二見臺に大觀するか、そは各人行程日時の長短によりて都合撰擇に委すべし、以上を手早くすれば一日にても成し得べく、又月讀月夜見の兩社を始め細かく末社名所を巡らんには週日にても猶ほ足らざるべし、旅宿は大厦高樓到る所に軒を列らべ魚鮮にして料又廉なり、內宮前の各旅館は五十鈴川の流れ淸く崇敬の念自ら湧き、便利にして何彼に都合よきは山田驛附近外宮前に及ぶべきなし、風流には古市ありて伊勢音頭の弦歌昔にかはらず、二見浦の風色は旅情を慰むるに適し更に鳥羽に宿るか朝熊山頂に一泊するも又興深かるべし、鳥羽より四里の磯部伊雜宮へは乘合自動車あり、香良洲神社は高茶屋より三十町の海濱に在し、松阪には本居宣長を祀れる山室神社あり一里にして塋域に到るべく其他阿漕浦・一身田高田御坊など、何れも伊勢名所として世に知られたるものなり。

參拜心得

神宮宮域內は、不淨を忌むこと古來最も嚴重なれば參拜者はよく此旨を心得心身を淸潔に保たれたく、又服裝はもとより宮域內に入りては喫煙吐痰等の行爲なきよう注意されたし撮影は許されざるも神苑地內に限り神宮警衛部の許可あれば差支なき定めなり。

奉賽心得

御神樂の奉奏、御饌の奉奠、金品の獻納をなさんとせらるゝ人は神樂殿に申出でらるべし、其規定左の如し。

大々神樂	初穗料	三十圓、五十圓、七十五圓以上
大神樂	同	十五圓以上
小神樂	同	七圓以上
一等御饌	同	二圓以上
二等御饌	同	一圓以上

物品獻納　農產物、海產物、紙、絹、綿布、芋、絲、木材、及び之に類するもの獻納者の處分方を指定するもの、廣告を目的とするものは受理されず。

御神樂奉奏座數	七千三百餘座	（大正十三年）
御饌奉奠座數	六萬二千餘座	（同）
奉納金品件數	五萬七千餘件	（同）
大麻授與員數	四百九十餘萬体	（同）
參拜人員	二百七十萬人	（同）
公式參拜人員	四千七百餘人	（同）

神宮御記

神宮と申すは皇大神宮（內宮と稱す）と豐受大神宮（外宮と稱す）とを併せての御稱號にて、皇大神宮は畏くも皇祖天照皇大御神を齋き奉れる宮所にして、神勅によりもと天皇の宮殿に齋き奉り給ひしが、崇神天皇の御宇神威を畏みて大和笠縫邑に移し奉り、次いで垂仁天皇の二十六年、宇治五十鈴の川上の地を大宮地と定め給ひ永久に鎭まります、爾來年を經ること昭和三年まで千九百三十二年なり、豐受大神宮は、豐受大御神を奉祀す、此大神は我國民生活の資料たる衣食住の根源を發き普く萬民に大御惠を垂れ給ふ御神に在して、皇大神宮御鎭座を距ること四百八十一年の後、雄略天皇の御宇二十二年、皇大神宮の神託により、丹波國與謝麻奈爲原より今の大宮地に迎へ鎭め奉る、御鎭座より昭和三年まで千四百五十一年なり。

何事のお在しますかは知らねども
　忝さに淚こぼるゝ　（西行）

內宮に十所の別宮あり、皇大御神荒御魂を祭る、・荒祭宮、月讀尊を祭る月讀宮、月讀尊荒御魂を祭る月讀荒御魂宮、伊弉諾尊を祭る伊佐奈岐宮、伊弉冉尊を祭る伊佐奈彌宮皇大御神遙宮なる瀧原宮、同じく伊雜宮、弘安四年蒙古襲來の時神威を現はせし級長津彥命、級長戶邊命を祭る・風日祈宮、大神宮の御杖代として伊勢へお供せし神なる倭姬命を祭る倭姬宮、以上これなり其外三十三所の攝社、十六所の末社、二十九所の所管社あり。

朝夕に物くふごとに豐受の
　神の惠みを思へ世の人　（宣長）

外宮に四所の別宮あり、豐受大神荒御魂を祭る・多賀宮、外宮々域の地主の神を祭る・土宮、月夜見尊、月夜見荒御魂を祭る月夜見宮、級長津彥命、級長戶邊命を祭る・風宮、以上これなり、其外十七所の攝社八所の末社四所の所管社あり、以上別宮に・印あるは宮域內にて。印あるは宮域外にあり、御祭儀式日時間等は表面地圖の所に詳記しあり。

名所案內

宇治橋は大橋とも云ひ長さ五十一間幅四間、橋材は總て檜を用ひ、御遷宮と同じく二十一年目毎に架換の定めなり、下を流るゝは則ち五十鈴川にて又の名を御裳濯川とも云ひ、源を神路山に發し內宮神苑を過ぎて伊勢灣へ注ぐ、淸流淙々として神心を淸淨ならしむる思ひあり、表參道の右側に手洗場あり、河鹿、螢を產す、內宮神苑は外宮神苑と共に明治二十二年起工にして、神路山の叢林五十鈴川の碧流に對し、自然の秀靈極致の雅趣を現す、其北端には明治三十八年五月二十八日日本海々戰に降伏したるアリヨールの十二吋砲にて造りたる紀念碑あり、尖端の缺壞せるは我砲命中の跡にて碑文は東郷大將なり、宮崎文庫は慶安元年の創設に係り、祠官講書の學舍にして、和漢の古書珍書を藏す、徵古館には徵古の稀品を陳列し、農業館には百穀の種子を始め、植樹、漁業、牧畜、養蠶等の統計模型標本解說並に諸機械等を蒐集陳列し、共に午前八時より午後四時まで公衆の觀覽を許す、朝熊山ケーブルカーは四十五度の急勾配にて、山上金剛證寺なる虛空藏は天竺傳來のもの、二見浦立石岬なる立石は俗に夫婦岩と呼び、大なるは高さ二丈九尺周圍十三丈二尺、小なるは高さ一丈二尺周圍三丈あり、日の神の拜所として大注連繩を懸く、夏曉、富士山よりさし昇る東海の朝暾を拜する美觀は他に其比なし、鳥羽港は舊稻垣氏の城下にして、日和山の眺望は松島にも勝さり、鷹一とつ見つけて嬉し伊良湖岬の芭蕉の句碑あり、並びて樋の山公園、鳥羽城趾、相島等の勝あり、磯部神宮は的矢港に泊せる船人等の遙拜する地にて、紀州瀧原の宮も同じ由のものと傳ふ、的矢港の東に安乘岬燈臺、渡鹿野島、白濱横林の村、御木本眞珠養殖所等あり、何れも乘合自働車又は定期汽船の便によりて一覽するも又神德の余惠なるべし。

伊勢土產

神宮守秡、劍秡、奉奠徹饌、等は申すも畏こし、御神號の軸、榊箸、竹箸、くり物、杉細工、貝細工、春慶塗漆器、傘、紙類、庖丁、陶器、生姜糖、飴、赤福餅、きさらぎ、もぞく、和布、鮑粕漬、等其重もなるものにて、朝熊の萬金丹と合羽の煙草入とは、古きのれんを誇りとす古人歌あり。

夕立は伊勢の壺屋の煙草入れ
　古る鳴る光る强いかみなり

伊勢音頭

何事も文化の世に、古への面影を其儘存するは、必要でもあり又最も悅ばしきものなり、古市の踊りと音頭も其一とつにて、鄙びたる節には俗語片たこと交りの歌を唄ふ所に地方色の現はれ最と深ければ、言ひ慣はしの儘の歌二三を左に揭ぐることゝす。

神風の伊勢の古市ふることの、其の山水を今こゝに、くみてぞしるき菊の酒、飮めばときめき氣も浮かれ、さいつ抑へつさかづきの、數も八重菊八重かさなれば、しごけなりふりらん菊の、すそのべに着てほら〳〵と、脛の白菊あらはになれば、

仙家の客はよんにのみ、見てや止みなん床入りはしばし岩戶の戀の闇、囃やせやはやせ笛太皷、皷ヶ岳の鶴の聲、ひく三味線や琴箱の、二見と今朝は別れても、外べはまたも鸚鵡石、いとしと云へばいとしと答へ、流れの身にし五十鈴川、淸き心のまんもづく、ねやの睦言云ひ過ぎて、唇寒し秋の風、あちら向ひたる片葉の芦の、びんとすねては見すれども、中直りすりや濱荻の、濱の眞砂のつきせぬ緣、二つの腕のいなをふせぞり、屛風の中は何事の、おはしますかは知らねども、有り難さには萬年の、後の命はきみしだい、じやりくらりの千早振る、神の畏しこき惠みを受けて、いつまで菊の宿ぞ久さしき。

伊勢の阿濃津の殿さまは、お立ちじやと云や雨が降る、おん高三十五萬石、伊勢の國での旗がしら。

馬は豆好き、馬子酒がすき、馬にのつたお客さんは女郎がすき。